



香葉

第9号

通算40号

関東学院女子短期大学

香葉会

発行人 山口佳子

代表 横浜市金沢区

六浦東1-50-1

直通・FAX 045-787-0678

E-mail: kouyoukai@nifty.com

URL <http://homepage3.nifty.com/kouyoukai/>

お申込み方法

フリガナ
住所・氏名・電話番号をご記入の上、
香葉会事務局へFAX・往復はがき・
Eメールにてお申し込み下さい。

- F A X 045-787-0678
- Eメール kouyoukai@nifty.com
- 横浜市金沢区六浦東1-50-1 〒236-8503

①金沢八景散策 ガイド：山口佳子(国1回)

日時 10月1日(出) 午前10時(雨天決行)
集合場所 京急 金沢八景駅
会費 1,000円(保険含む)
申し込み締切 9月22日(休)

②陶芸教室 講師：佐々木まどか先生

日時 10月29日(出) 午前10時～12時 成形
11月26日(出) 午前10時～12時 色付
場所 室の木校地 7号館(陶芸棟)
会費 3,500円
持ち物 エプロン・タオル
申し込み締切 10月13日(休)

③日本画講習会 講師：織田明美(家12回)

日時 11月16日(休) 午前10時～12時
場所 香葉会室
会費 1,000円(材料費含む)
持ち物 エプロン・タオル(あれば 筆・顔彩)
申し込み締切 11月7日(休)

④山手西洋館散策 ガイド：精木勇先生

日時 12月10日(出) 午前10時(小雨決行)
集合場所 港のみえる丘公園入口
会費 1,000円(保険含む)
申し込み締切 11月30日(休)

⑤ビーズ講習会 講師：高石和枝(国4回)

日時 平成24年1月21日(出)
午後1時から(3時間程度)
場所 香葉会室
会費 2,000円(材料費含む)
持ち物 針・糸きり鋏・眼鏡(必要な方)
申し込み締切 12月20日(火)(先着10名)

4 山手西洋館散策

恒例と成りました西洋館のクリスマス。今年も精木勇先生のガイドで世界のクリスマスを楽しみましょう。

野島にある旧伊藤博文邸を見学。懐かしの金沢へ「Let's Go」！終了後、希望者は、昨年十一月に下田先生の記念植樹を行った、室の木校地を見学します。

1 金沢八景散策

2 陶芸教室

節電の中、学校にご協力頂き、今年も、陶芸教室が開催できることに成りました。今回は全員が同じ形のお皿を一枚製作致します(写真参照)。色付けでオリジナルデザインを楽しんで下さい。(色づきはお願い出来ます)



佐々木まどか作

3 日本画講習会

来年の年賀状は日本画でデザインしてみませんか？一枚一枚心のこもった素敵な年賀状で新年のごあいさつをしましょう！初心者の方も大歓迎です。

5 ビーズ講習会

鏡(写真参照)にビーズ刺繍をします。初心者の方でも大丈夫です。



会長挨拶



山口佳子(国1回)

二〇一二年三月十一日 午後二時四十六分

冒頭にこう申し上げただけで、皆様はもうおわかりになっていると思います。

地震、津波に原子力発電所問題が追い討ちをかけてきております。

未だに解決のつかない状況の中で私達はなにができるのでしょうか？

短大の卒業生は東北六県及び被害の大きかった茨城県を含めますと六〇〇名程がお住まいになっていらっしゃると思いますが、消息となりますと掴むのが難しくお知らせいただくのを待っています。

香葉会ではホームページ上に「頑張ろう 日本！」と題した文を載せましたが、その折ご寄付のお願いをさせていただきます。四月二十七日には神奈川新聞を訪問し、演劇部の卒業講演での来場者からのカンパ、学生・教職員からの寄付、燦葉会・香葉会からの寄付金を寄託させていただきますました。(四月三十日付神奈川新聞掲載)

また大学では東日本大震災現地支援活動ボランティア募集があり五期に渡り、支援活動が行われました。第二期メンバーは、宮城県南三陸町へ向けて出発、現地住民の方の要望に基づいた支援、地域復興に向けた取り組みの手伝いを行いました。

支援に向けました寄付を引き続きお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。(詳細はHP)

またどのような影響があったかを申しますと、卒業式、勿論謝恩会は中止。入学式も中止となりました。卒業証書や謝恩会でお渡しする「香葉賞」は本人に郵送で送られたとのこと。但し二〇一一年十一月三日には、卒業した学生が集まっていたような集まりが計画されています。

今年も香葉会としての企画を用意いたしましたので、第一面をご覧ください。節電中の陶芸教室は学校のご協力で開催が可能となりました。野島など懐かしい場所に学生の頃の想いを馳せていただけますよう金沢八景の散策をいたします。野島展望台から見えていました旧伊藤博文金沢別邸が復元されています。しばし明治の頃とそこから望む八景島を楽しんでください。毎年好評の西洋館めぐり、日本画で描く年賀状、今年は憧れのビーズ刺繍を習う企画もできました。

なでしこジャパンの快挙、宮里藍の躍進 前を向いて歩く先頭はいつも女性、しっかりと同窓生の輪と和を広げ、そして繋ぎ絆を強めていきます。学部の間窓会「燦葉会」には、全国に支部があり短大卒業生の参加ができますし、望まれています。お知らせしました故下田先生の記念プレート横に植えましたオリーブに実がなりました。どうぞ室の木の校舎と中にあります「香葉会室」にお立ち寄り下さい。

故下田哲先生記念植樹、記念プレート除幕式とティーパーティーについて

平井たみ子(旧姓田村)(家22回)

昨年は、故下田先生の記念礼拝に出席させていただき、三十数年振りに懐かしい先生方にお会い致しました。懐かしい思いに浸ることができました。下田先生のご家族ともお会いでき、先生の思い出に話の華が咲き美しく語る事が出来ました。

また、十一月二十四日(水)は、室の木校舎正門の近くに、下田先生ご寄付による、オリーブの樹の植樹と記念プレートの除幕式がありました。林淳三元短大校長はじめ多くの先生方、香葉会の方々が御臨席下さいました。春まだ浅く、少し寒さも感じましたが、天気に恵まれた一日になりました。



プレートには「知識も進みて敬虔深かれ こころの緒琴の調べも高かれ」(下田哲著書『感謝』より)の先生直筆のお言葉が刻まれています。是非一度ご覧下さい。

式典も無事終わり、ティーパーティーの始まりです。場所を香葉会室に移し、林淳三先生はじめ、多くの先生方、卒業生の皆様が御参加下さり、先生方との昔話も盛り上がり、とても楽しい一時を持たせていただきました。役員の皆様のご準備で、たくさん種類の軽食が用意されおいしくいただきました。役員の日頃の御尽力を感謝致しました。



ありがとうございます。

懐かしい先生方とお会いでき、大変嬉しい気持ちで帰路につきましました。

林淳三先生を囲む集い

相吉 典子 (家10回)



去る六月十二日(日)午後一時〜三時、ホテル・キャメロット・ジャパンで林淳三先生の米寿のお祝い会が催されました。司会は渡辺紀子先生、開会のご挨拶は和田淑子先生。

お祝いの言葉は小玉敏子先生を皮切りに、諸先輩の方々がそれぞれの立場で、先生との思い出や短期大学時代のエピソードをお話しされました。出席者は六十名余り、先生方・事務局の方々でうめつくされてお顔ばかり。かつての短期大学を彷彿させるものであり、それは同時に林先生がいかに短期大学の教育に力を入れていらしたか、そしていかに皆

様方に愛され慕われていらしたかを感ずるものでした。

林先生はお元氣そのもので、学長時代と少しもお変わりないパワーでのお話に、タイムスリップしていつの間にか短期大学の様々な情景が走馬灯のように思い出される程でした。林先生が関東学院短期大学の地位を格上げされたこと、大学の単なる一分野の形であったのを、校舎も室の木に移されてから、短期大学という独自の校風と内容を持つようになされた実績の数々。そうした先生のパワーと実力を今後も更に色々な分野でお示し頂きたい。そのためには一層のご自愛とご活躍を心からお祈り致します。

この会は「米寿の会」ではなく「林先生を囲む会」ということで承諾されたこと。出席させていだいて、何か短期大学の同窓会にいるような感じで楽しく時を忘れましました。これからもこうした機会を持っていただきたい。そして先生には是非後輩のご指導を宜しくお願い申し上げます。たいと祈願するものです。

「岡松先生を囲む会」に参加して

杉山 和佳江 (国7回)

東日本大震災の後、何となく落ち着かない不安な日々を過ごしておりました。そんな折、五月二十二日(日)「茅ヶ崎館」にて「岡松先生を囲む会」が催されるというお知らせをいただきました。勿論二つ返事で出席決定!! 久しぶりに楽しみができて、嬉しく待ち遠しい気持ちでその日を迎えました。

「茅ヶ崎館」は映画監督の小津安二郎の縁の旅館で、昭和の薫りが漂う趣のある建物でした。仄暗い廊下や明るく開けたお庭が眼にやさしく映り、しっとりとした空気が私たちを懐かしい学生時代へと連れて行ってくれました。

『会』には岩佐先生をはじめ、第一期生の方々など約十八名が参加しました。おいしいお料理をいただくながら、学生時代の思い出話やそれぞれの近況を話し合い本当に楽しいひとときでした。岡松先生は一時体調を崩されたこともあったそうです。が、とてもお元気な様子で皆の話に耳を傾けてくださいました。そ



して一言一言丁寧に言葉を運びながら、私たちに励ましとこれから歩むべき心構えを話してくださいました。思えば私たちはなんと恵まれた時代に生まれ、自由で楽しい学生時代を過ごしてきたのでしょうか。日本中が前を見て、未来に夢を持って進んで来られたのです。学生だった私たちは大城先生や岡松先生、杉野先生、山下先生に多くを学び、良き友に出会えました。あの頃の岡松先生は、凛と張りつめた空気を身にまとい、おられました。研究室などでお会いすると、思わず緊張してしまつたのを思い出します。そして、私たちがあの頃は何に向かっているのかは分からないけれど、ただただ一生懸命だったような気がします。

「茅ヶ崎館」のやわらかな空気が私たちの「昭和」を思い起こしてくれました。そのうえ岡松先生とゆつたりとした同じ「時」を過ごさせてくれたのです。本当に楽しく、感謝の一日でした。

天気予報どおり雨が降り出しましたので、傘をさしかけて岡松先生をお見送りしました。先生を乗せた車が角を曲がると見えなくなると「昭和の乙女たち」は、たちまち「平成のおばさん」に戻ってしまいました、とさ...

震災について思うこと

仙台市 伊藤 菱子 (英17回)

「お父さん、何も無いよ!! 閉上も荒浜も何も無い。」息子が父に話します。名取市にある閑上は、子供の頃に息子が父に度々釣りに連れて行ってもらった漁港です。全て、津波に流されてしまいました。再三、報道放送されているこの被災地に五月の初め、足を踏み入れました。本当に何も無いのです。あるのは瓦礫の山と残っている骨組みだけの鉄骨。しかも二階にはバスが突っ込んだまま。唾然としました。この被災地に住んでいた人たちの思うと、胸が詰まり、涙が出てきます。

絶えました。寒空の下、三〇〇mほど先にある給水所で四時間並んでやっと四〇ℓの水をもらい、スーパーでは五時間並び、一〇ℓのガソリン・灯油を入れるために深夜三時から並ぶ日々でした。幸いにも電気は三日目に使えました。水汲みもほとほと疲れてきた三月後半、やっと水が出て孫達と手を叩いて喜びあいました。

皮肉なことですが、震災をきっかけとして、しばらく疎遠になっていたご近所との繋がり、家族の絆の大切さが身にしみました。また、電気・水・ガスがどんなに大事か、そしてどれ程無駄に使っていたかを実感させられました。

海外、県外からの皆さんの手助け、本当に感謝しております。現在でも他県ナンバーの救援車両を多く見かけ、頭が下がる思いです。

未だに、ライフラインが開通していない地区があると思うと心底から喜ばませんが、私達が出来る範囲で復興のお手伝いをしたいと思っていますこの頃です。

「困った時はお互い様。何かお役に立てれば。」息子夫婦は休みを返上し、今日も自前の土のう袋を持ち家々の泥かきに出かけていきます。



平成23年3月11日 午後2時46分

被災地釜石を訪ねて

松野 トシ子 (英5回)



七月八日、新花巻駅から釜石線に乗り換えて釜石に向かいました。車中で埼玉から遠野へ行くと言う五十代後半の女性とお話することが出来ました。彼女は遠野に行くのは一〇回目で避難所生活をしている方々に会いに行かれるそうです。彼女は「皆、私を待っていて下さるの」とさりげない表情で話してくださりました。一時間半位して釜



石駅に着く。すぐ目に入ってきた光景は大きな煙突からモクモク湧き上がる煙。下には何と沢山な瓦礫の山。港の方へと歩いて行くと商店街の通りに出たのですが、街の中には一人も歩いておらず薄暗い感じがしました。勿論信号機等動いていません。時々自動車が行く位。一本横の通りに入りますとそこも、また、瓦礫の山。ほとんど手つかず状態の様に見えました。倒れかかった家、壊れて形をなさない自動車、住宅の屋根に乗っている自動車。目をそむけたくなくなるような光景がそのままにありました。歩きながらこの家々に再び人々が住み、生活出来る時がいつ戻るのだろうか、と。戻れるとしてどれだけの年月がかかるのだろうか、と。思いながら歩いて、もう、二、三時間過ぎてしまいました。しかし予定の半分も回る事が出来ませんでした。

再び訪れようと思いつくからこの現実には自分はどうな事が出来るのか？長く続く大きなテーマを与えられた様に感じながら帰路につきました。

アイデンティティー、ふつふつと。

井上 啓子 (家27回)
(現、米国ロサンゼルス在住)

その衝撃を目の当たりにしたのは、夜の十時半でした。(日本時間午後三時半) いつもはテレビを観ていない時間なのに、何気なくチャンネルを日本語放送に合わせました。飛び込んだ映像に、言葉を出すことも出来ず、身体が震えました。

その日から海外に住んでいる日本人は、いかに情報を得るか、様々な手段を考えました。ケーブルテレビでは普段有料の日本語放送局が、翌日から数日間、二十四時間無料で放送してくれました。携帯電話で観るUstreamや、インターネットが活躍したことは言うまでもありません。

しばらく経ったある日、日本人の友人が、私の夫はアメリカ育ちの日本人で、普段は合理性を優先する人だけど、大震災を境にして「やっぱり僕は日本人だ」と言い出し、日本のために何かしなくては、何かしたい、と胸の底から湧き出てくるものがあるんだ、と言うのよ、と話してくれました。

また、ある若いお母さんは大きな日の丸(国旗)を手に、街へ出て署

名と義援金を集めるために、連日足を運んでいました。日系のマーケットでもそのような方々を大勢目にしました。

日本には「がんばる」という言葉があり、日本人のDNAに組み込まれているように思います。でもその言葉は無責任に誰かに言うのではなく、自分の心に、自分のDNAに呼びかける言葉であると強く感じていきます。日本人であることを誇りに思いつながら。今も深い悲しみの中にいらっしやる皆様に、心からの哀悼を捧げます。



植樹したオリーブの実がなりました♪

短大改組から、今年で十年になります。

室の木キャンパスは、四年制の人間環境学部学舎として、関東学院大学のなかでその歴史を刻み続けています。

初夏、故下田哲先生記念のオリーブの樹に、いくつもの若碧色の実がなつて、それを見た私たち卒業生を喜ばせてくれます。

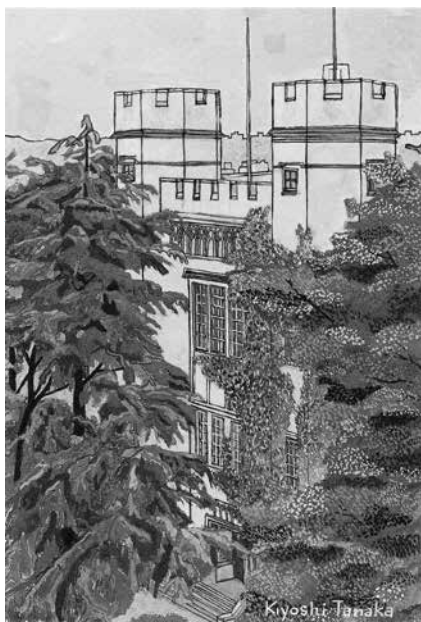
我が学び舎、 中学校日本館

中高校長 富山 隆

現在、三春台校地で改修・保存工事を待っている中学校旧本館は、ご案内のとおり一九二九年に竣工した、関東学院の名前を冠した最古の建造物である。学院の歴史の上ではもとより、横浜市歴史的建造物に認定されるほどに、文化的価値が高い。

香葉会の皆さんにも、ぜひとも改修・保存へのご支援をお願いするところである。

もちろん女子短期大学は長く六浦校地(室の木)にあり、この建物を学び舎とした方は、多くはないかも知れないが、皆さんの母校関東学院女子短期大学の前身、関東学院女子専門学校もまた、この三春台校地が発祥地であり、中学校旧



画 田中喜芳 (橄欖会高23回)

本館を校舎として一九四六年に発足しているのである。

往事の写真をみると、女子専門学校傘下に設立された新制女子高等学校の生徒の姿もあり、戦後の横浜にあったこの三春台校地は「櫻の園」といった様相を呈している。新生日本を牽引するエリート女性にならんとする活気が横溢しており、自らを自立する女性に磨かんとする笑顔の目は輝き情熱を秘めている。ここに写る学生たちの高い志は、女子短期大学の学生・卒業生に引き継がれていることと拝察する。

三春台校地は女子短期大学「香葉会」発祥の地である。中高「橄欖会」と手を携えて改修・保存計画を推進することを、物心ともにお願いしたい。

(七月二十二日現在、改修・保存に向けて法人の機関決定を待っている。)

歩

小野里幹子(英11回)



関東学院短期大学を卒業から、はや五十年の歳月が過ぎ、昭和から平成に年号が変わり、悲しいこと、嬉しいこと、さまざまな事が走馬灯のように頭をよぎります。やっと自分の時間が持てる学生時代の友人達と、月に一度のランチを楽しみ、当時の友人の名前を呼びあい会話を楽しんでいると、学生時代にタイムスリップするようです。

現在、私自身は横浜の吉田町に画廊をオープンして十七年目を迎えようとしております。『画廊をオープンした、切っ掛けは』と、よく尋ねられます。現在のビルが出来上がる頃、「ここに画廊があるといいね」という声がありました。その時、人に貸すばかりでなく自分でもなにかやりたいと思いついていた矢先だったので、それも楽しそう：なんて簡単に思いこんでしまい、画廊をオープンしてしまいました。オープンしたてのころは、自分には向かないのではと何度も壁にぶつかりました。そのうち知人、友人、作家さん達の協力により、さまざまなジャンルの作品を手掛ける事が出来、ギャラリーの

経営も軌道にのり始めました。画廊を立ち上げてよかったと思う事があります。それは関東学院大学工学部建築学科OBの絵画部の部員の方がたが第一線で活躍なさっている中を高津先生を開催してくださることです。同じ学院で学んだ仲間として、とても誇りに思っております。水彩画、油彩画、工芸、製図、写真等それぞれ個性豊かな、すばらしい展覧会です。絵に囲まれ静寂な空間の中に身を置く事によって心が癒され幸せな気分になります。また、桜のシーズンにはギャラリーから大岡川沿いに桜が眺められすばらしい風景だと評判になっております。絵画を鑑賞する事によって元気をもらったり、人生を豊かにする力を持っていると感じております。これから誰でも気軽に活用出来る場としてすこしでも社会に貢献していけたらと考えております。

燦葉会 支部会 御案内

◎湘南支部

9月4日(日) 16:00~
グランドホテル湘南(藤沢)

◎西湘支部

9月17日(土) 14:00~
銀座ライオン(小田原駅前)
ベルジュ7階

◎県央支部

11月26日(土) 18:00~
上海菜館(本厚木)

卒業以来四十六年、未だに部活を共にした仲間との輪が続いています。会員は十人、常時参加は六名、八名。

短大入学後、クラブ勧誘の嵐の中、旅が出来、ユースホステルクラブに入部。

当時一泊四五〇円、これがなんと言っても魅力でした。袋状に縫ったシーツをリュックに背負い、一名カニ族とも呼ばれていました。

夏休みを心待ちに、九州一周、時刻表を調べコースを決定。地図上で旅行前にすでに旅を終わってしまっただかのような観光地めぐりをしました。二年の春休みには四国を一周。一言で言う素朴そのものでした。

「山ゆり会」…部活の仲間たち…



林 雅恵(旧姓 加藤)(英14回)

最後の夏休みは二週間の沖縄視察の旅を、当時沖繩はアメリカの領土でした。一ドル三三六〇円の為替レート。これは学部YHCの企画でしたが当時顧問の長島先生も一緒に総勢十四人の参加でした。初めてバスポートを取得、珊瑚礁の海の美しさが、今尚、目に焼きついていて忘れがたい旅でした。

卒業後、山ゆり会のメンバーは子育てに忙しく、会合もありませんでした。十年位経ってからでしょうか？一年に一度メンバーの新居を訪ねホストファミリーの用意して下さったランチを頂きながらおしゃべりに花を咲かせ楽しみました。一年に一軒ですから十年位続いたでしょうか？

子育てが一段落すると桜見物や一泊旅行を積極的にな。ここ十五年位は新年会の時に、年間計画を企てます。先ず一泊旅行の幹事と、春にするか秋にするか決めます。一月は新年会、その他は幹事さんの特権で計画をたててもらいます。

ここ数年、学部OBとの合同旅行が二年に一回あります。今まで北海道、箱根、富山と一泊旅行をしています。参加者は十五人前後、この会も同時代に部活に所属していた仲間です。

昔、学生時代に「同じ釜のご飯を食べた」これが何十年ものブランクを超えて、白髪が目立つ今でさえ絆となっているのでしょうか。

これからも元気の続く限り、山ゆり会で共に愉しんで行きたいと思っています。

秋の散策

井上 吉隆

十月二日快晴の空は散策をするのに最高の日和であった。

坂本おりょうさんの菩提寺信楽寺の境内は、きれいに掃き清められていた。

かつて、阿井景子著「龍馬の妻」での事前の知識があったものの、大河ドラマで大きく取り上げられているので、どこまで紹介できるかとの心配はあったものの、参加者一同との交流の中で参拝は大変有意義であった。

特に、精木勇さんがいろいろ現地案内をされているので、視察の視点を心得ていられるのが、案内をする側にとって心強かった。

それにしても坂本龍馬を思い出すたびに、彼が生きていたら歴史は変



(信楽寺の前にて)

わっていたのではないかと思われる。それ程幕末における彼の存在感は高かったのだ。

その後ペリー記念碑に向かった。一八五三年ペリー来航こそが、日本開国への幕開けであり、龍馬にとっても世界への目を見開く動機の一つであった。

我々が子供の頃から馴染んだ伊藤博文の揮毫により、金子堅太郎により設立された記念碑だが、第二次世界大戦中には倒されていたものも無事復元され、我々に開国の意義を伝えてくれる。

それにしても参加者の知識欲の旺盛さには感心させられた。参加者の中には皇居東御苑の文庫で公開展示された目録を持参され、その中には薩長同盟の盟約に坂本龍馬の裏書きのあるものがコピーされていた、木戸家文書が宮中に寄託され今回の展示となったことを知ることができた。秋の一日、大変有意義に過ごすことができたことをうれしく思います。

(経済学部卒 燦葉会々員)

日本画講習会

昨年11月17日(水)、初めての日本画講習会で干支のうさぎを描いて年賀状を作成しました。初心者の方にも楽しんで描いて頂きました。



(外交官の家の前にて)

巡るう山手

—西洋館とカトリック聖堂—

精木 勇

クリスマスシーズンの山手西洋館散策ガイドをお手伝いするようになって今年で四回目になるうとしていきます。歴史的建造物である七つの館は毎年世界各国のクリスマスデコレーションを見せてくれます。初回のとき、各国出身の人たちのボランティアによるものとは思い込んでいました。各館ごとに異なるデザインナーたちが指名されて関わっていることを知り少々失望しました。しかし、プロによる素晴らしい作品は、人々を十二分に楽しませてくれます。今までは外交官の家が最後で五時頃となり、暗くなった庭園にイルミネーションが美しい見ものでしたが、スタート時間が早まると見られなくなるのは残念です。昨年は、西洋館以外にオプシ

として、ドクトル・ヘボン(医療宣教師、ヘボン式ローマ字考案者、横浜指路教会および明治学院創設者)が晩年の一五年間住んでいた場所を案内しました。今年のオプションはカトリック山手教会を予定します。建物は一九三三(昭八)築・設計はチェコ出身の建築家J・Jスワガーによるものです。ゴシック様式。幅広でゆったり正面階段を上ると優れた空間の聖堂。天を突く尖塔は山手のランドマーク。堂内では十字架上のキリスト像、聖マリヤ母子像、などが見られます。プロテスタント教会の礼拝堂とは大分異なる空間があります。アドベント(待降節)の折であり、巡礼者の気持ちになって堂内に入ってみましょう。毎回の事ながらグループウォーキングでは、前方と後方が大きく離れがちになります。参加希望の方はどうぞ今から脚を大事に、丈夫にしておいてください。沢山の参加者を期待します。(元関東学院女子短期大学非常勤講師 精木建築美術研究所長)

